

職業体験もつと早く

建設業で高校生の母親と懇談

道商連など



母親が職場環境の改善に向けて数々の提案を寄せた

母親が建設業の役割や仕組みが理解できた。イメージが独り歩きしていった。業界を理

深刻な人材不足を解決するため、高校生の職業選択で最も影響力がある母親から、建設業に対するイメージや意見を聞く懇談会が23日、札幌市内の道経済センターで開かれた。母親からは「もう小さいところから職業体験をさせてもいいのでは」などの有意義な提案があつた。

懇談会が23日、札幌市内の道経済センターで開かれた。母親からは「もう小さいところから職業体験をさせてもいいのでは」などの有意義な提案があつた。

道建協の地方組織である札幌建設業協会の聞き取り調査などによると、工業高校生は卒業後の職業として建設業に興味を示すものの、就職行動では避ける傾向にあることが分かった。

また、道建協のアンケート調査で、生徒が進路相談する相手は「母親」が最多の31%を占めたため、強い影響力があると判断して懇談会を企画した。

中学生や高校生の子どもを持つ母親7人が参加。道商連の安孫子建雄産業振興委員長は「建設業への理解を深め、改善点やアイデアを寄せてほしい」と期待を寄せた。

母親が持つ建設業への印象で共通していたのは、「体力的にきつく、冬の間は仕事がなく雇用保険をもらっているなどで、悪いイメージが浸透していることが浮かび上がった。しかし、懇談会での説明を通じて、30代の母親は建設業の役割や仕組みが理解できた。イメージが独り歩きしていった。業界を理

り、自然災害の応急復旧に出向く、誇り高い産業」とアピールした。建連北海道の熊谷誠一副本長は元請けの総合建設業と下請けの専門工事業の違いを説明し、「専門工事業は26職種あり、現場のプロフェッショナルとして働いている。高校生や子どもたちを対象に職業体験の催しも実施している」と述べた。

道建協の牧野光博専務理事は「公共事業の削減により、リストラや新卒者の採用抑制・倒産・廃業、3K(きつい、汚い、危険)という厳しいイメージが定着したのでは」と推測。その上で「業績は回復している。地域や企業の営みに不可欠である職業になつてほしい」と望んだ。

札幌建協の野村幹夫労務委員長は「有意義な懇

談だった。「職場環境を改善するたび、その成果を発信したらどうか」という提案も参考になつた。中長期の人材問題を解消するため、もっとPRに努めたい」と手応えを感じていた。

建設業知る機会増やして

取組の発信でも意見

一般社団法人北海道商工會議所連合会と一般社団法人北海道建設業協会、建設業専門団体北海道地区連合会は二十三日、札幌市内の北海道経済センターで、学生の保護者との懇談会を開催した「写真」。建設業

親六人は、建設業の人材確保対策の一環として開いたもの。参加した母ジアップや人材確保に向けたPR方法などについて意見を。就業環境改善の取組を

保護者との懇談会は、建設業のPR漫画『ただいま工事中』の発行に続く、三団体合同プロジェクトの第二弾。学生の進路選択に影響力をもつ母親の生の声を聞き、今後の取組の参考にすることなどを提案した。

親六人は、建設業のイメージアップや人材確保に向けたPR方法などについて意見を。就業環境改善の取組を発信することや、小学生対象の体験型イベントを増やすことなどを提案した。

保護者との懇談会は、建設業のPR漫画『ただいま工事中』の発行に続く、三団体合同プロジェクトの第二弾。学生の進路選択に影響力をもつ母親の生の声を聞き、今後の取組の参考にすることなどを提案した。



道建設部、教育委員会が人材確保に向けた支援策を説明したあと、母親との意見交換を実施。母親からは、「冬場に仕事が忙いなど、イメージは悪い」と率直な意見が上がる一方

しょこうと開催した。

懇談会には、三団体の代表者のほか、道建設部、道教育委員会から担当者が出席。中・高・大学に通う子どもをもつ母親六人が参加した。

三団体の担当者は、建設業が社会で果たす役割の重要性や、現在直面している高齢化や若年入職者の減少などに言及し、「危機感以上のもを感じている」と訴えた。高校生を対象とした現場見学会やPR漫画の発行などを実施していることも報告。情報発信に力をしているが、実際の就職に結びついていない現状を説明した。

懇談会終了後、母親の一

人は「きょう知ったお話しは、フェイスブックで発信するつもり。多くの方が懇談会に参加できれば、お母さんのもつネットワークで

一気に情報が広がると思う」と話していた。

三団体は、母親の声をさらに聞くと、第二回懇談会の開催を検討する考え。親子現場見学会とセットでの開催など、実施方法を含めて検討していく。



道商連ら

人材確保に母の声 学生保護者と懇談会

保護者からは建設業を知る機会を増やすべきなどの意見があった

北海道商工会議所連合会と
北海道建設業協会、建設産業
専門団体北海道地区連合会は
23日、札幌市中央区の北海道
経済センターで中学校、高校、
大学に通う子どもを持つ母親
ら7人を招き、「建設業の人材
確保に向けた懇談会」を開催
した。

学生の進路選択に影響力を
持つ保護者の声を聞き、今後
の取り組みに反映させていく

ことを目的としたもので、建設業の人材確保、建設業のイメージアップや入職促進に向けたPR方法などについて意見交換した。冒頭、あいさつした北海道商工会議所連合会の安孫子建雄産業振興委員長は「建設業への理解を深め、改善点やアイデアを寄せてほしい」と述べ、保護者に積極的な提案を求めた。

各団体の担当者は、建設業が社会で果たす役割の重要性や現在抱えている課題について説明し、就業者の高齢化や若手入職者の減少などについて危機感を訴え、実際に高校生を対象とした現場見学会やPR漫画の発行などを実施していることを報告した。

母親からは、イメージアップに向けてさらにアピールする必要性や、建設業を知る機会を増やすことが重要などとの声が挙がった。